

● 博士課程（前期課程）の修了と学位の取得について

1 修了要件

- (1) 博士課程（前期課程）に2年以上在学すること（休学期間は含まない）。
- (2) 修了必要単位数表（履修要項参照）を確認のうえ、必要な単位を30単位以上修得すること。
- (3) 「論文」または「課題研究」を提出し、審査及び最終試験に合格すること。

2 学位の授与

本研究科博士課程（前期課程）を修了した者には、コースにより以下の学位を授与します。

- 政策研究コース《2012年度以降生》
修士（政策科学）（同志社大学）
Master of Arts in Policy and Management
- ソーシャル・イノベーションコース《2012年度以降生》
修士（ソーシャル・イノベーション）（同志社大学）
Master of Arts in Social Innovation
- 図書館情報学コース《2015年度以降生》
修士（政策科学）（同志社大学）
Master of Arts in Policy and Management

3 学位授与式

3月および9月に学位授与式を行います。

4 学位論文の保管

製本された修士学位論文は、①志高館の烏丸書庫、②総合政策科学研究科に各1部ずつを保管します。

5 修士学位取得までのプロセス

【標準研究日程】

※日程等詳細はHPでお知らせします。

年次	学期	内容	日程
1年次	春	履修科目の登録 「演習入門」の登録	4月 (春学期科目登録期間)
	秋	「研究演習Ⅰ」の登録	9月 (秋学期科目登録期間)
2年次	春	履修科目の登録 「研究演習Ⅱ」、「研究演習Ⅲ」の登録 「論文」または「課題研究」の登録	4月 (春学期科目登録期間)
	秋	「題目届」提出締切	秋学期講義第二週目初日
		「題目変更届」提出締切	11月上旬
		「修士論文」または「課題研究」提出締切	1月上旬
		論文提出後	
		修士学位論文審査会	2月上旬
		修士学位論文審査（研究科委員会）	2月下旬
		修士学位論文審査（研究科長会）	3月上旬
学位授与式	3月中旬		

2年次の秋学期に論文が提出できなかった場合、あるいは審査の結果、不合格となった場合は、次年度春学期に提出することが可能です。

<参考>

【1年短期修了 研究日程】

年次	学期	内容	日程
1年次	春	履修科目の登録 「演習入門」、「研究演習Ⅰ」の登録 「論文」または「課題研究」の登録	4月 (春学期科目登録期間)
	秋	「短期修了申請書」提出締切*1	秋学期講義第二週目初日
		「題目届」提出締切	
		「題目変更届」提出締切	11月上旬
		「修士論文」または「課題研究」提出締切	1月上旬
		論文提出後	
		修士学位論文審査会	2月上旬
		修士学位論文審査（研究科委員会）	2月下旬
修士学位論文審査（研究科長会）	3月上旬		
学位授与式	3月中旬		

*1 指導教員に相談のうえ短期修了申請書を提出すること。詳細は短期修了に関する要項（p.11～p.12）を確認すること。

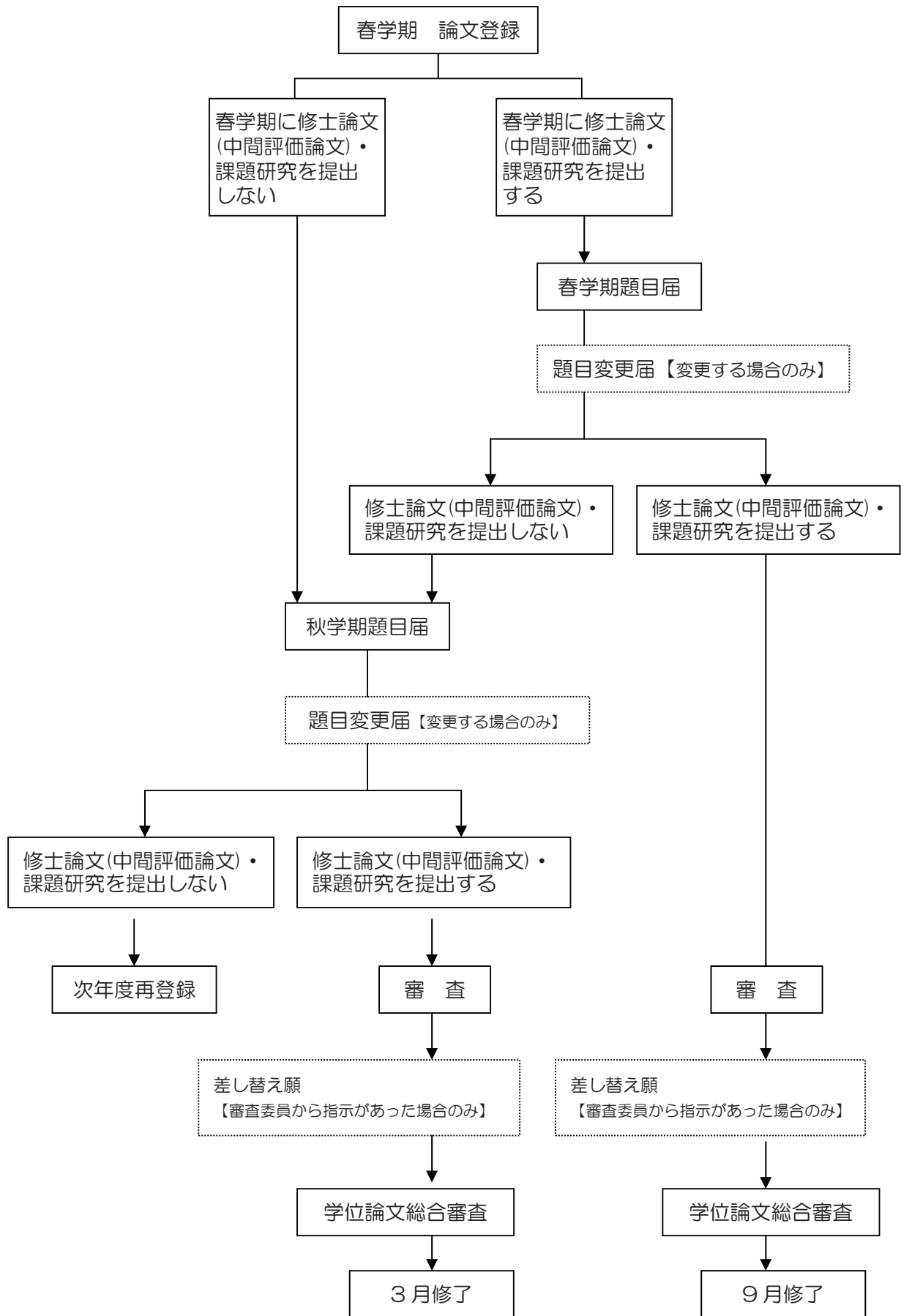
【1年半短期修了または9月修了*¹ 研究日程】

年次	学期	内容	日程	
1年次	春	履修科目の登録 「演習入門」の登録	4月 (春学期科目登録期間)	
	秋	「研究演習Ⅰ」の登録	9月 (秋学期科目登録期間)	
2年次	春	履修科目の登録 「研究演習Ⅱ」の登録 「論文」または「課題研究」の登録	4月 (春学期科目登録期間)	
		「短期修了申請書」提出締切* ²	春学期講義第二週目初日	
		「題目届」提出締切		
		「題目変更届」提出締切	5月上旬	
		「修士論文」または「課題研究」提出締切	6月中旬	
		論文提出後		
		修士学位論文審査会	7月上旬	
		修士学位論文審査(研究科委員会)	7月中旬	
		修士学位論文審査(研究科長会)	9月上旬	
		学位授与式	9月下旬	

* 1 修業年限を超えて9月に修了する場合、論文の作成については上記の日程を参考にすること。

* 2 指導教員に相談のうえ短期修了申請書を提出すること。詳細は短期修了に関する要項(p.11～p.12)を確認すること。

修士論文(中間評価論文)・課題研究 提出フローチャート



修士論文審査基準

(1) 趣旨

「同志社大学大学院総合政策科学研究科は、同志社大学大学院学則第6条の9第2項に基づき、修士学位論文に係る評価の客観性及び厳格性を確保するため、あらかじめ明示した基準にしたがって審査を適切に行うものとする。」

(2) 審査基準

修士学位論文の審査に当たっては、大学院学則を踏まえ、次に掲げる各基準を総合的に評価し、修士学位論文としての水準に達していることを必要とする。

①内容的要件

- ・ 研究テーマの妥当性、明確性
 - 1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること
 - 2) 研究課題の背景と意義が十分に記されていること
- ・ 研究・分析方法の妥当性
 - 1) 先行研究や関連した研究を十分に調査し、考察されていること
 - 2) 研究テーマに対して適切な研究・分析手法を採用していること
- ・ 論理の一貫性、論理的考察
 - 1) 分析、結果、考察にいたる論理展開に整合性、一貫性があること
- ・ 結論、結果の適切性、明確性
 - 1) 研究結果が明確に示され、その解析と考察が適切に行われていること
- ・ 独創性、新規性
 - 1) テーマ設定、論旨、分析手法などを通して独創性を有するものであること
 - 2) 研究の結果として得られた結論が、従来の研究に対して新たな知見を示す内容であること

②形式的要件

- ・ 規定字数、枚数の要件を満たしていること
- ・ 本文、注、図、表、参考文献等の記述が、適切な体裁を備えていること
- ・ 誤字、脱字等の不備のないこと

課題研究審査基準

(1) 趣旨

「同志社大学大学院総合政策科学研究科は、同志社大学大学院学則第6条の9第2項に基づき、課題研究に係る評価の客観性及び厳格性を確保するため、あらかじめ明示した基準にしたがって審査を適切に行うものとする。」

(2) 審査基準

課題研究の審査に当たっては、大学院学則を踏まえ、次に掲げる各基準を総合的に評価し、課題研究としての水準に達していることを必要とする。

①内容的要件

- ・ 研究テーマの妥当性、明確性
 - 1) 研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること
 - 2) 研究課題の背景と意義が記されていること
- ・ 研究・分析方法の妥当性
 - 1) 先行研究や関連した研究を調査し、考察されていること
 - 2) 研究課題に対して分析的な手法を採用していること
- ・ 結論、結果の適切性、明確性
 - 1) 研究結果が明確に示され、その考察が適切に行われていること
- ・ 学修・研究の成果
 - 1) 研究の結果として得られた結論が、一定の研究上の意義を有すること

②形式的要件

- ・ 規定字数、枚数の要件を満たしていること
- ・ 本文、注、図、表、参考文献等の記述が、適切な体裁を備えていること
- ・ 誤字、脱字等の不備のないこと